

令和 3(2021)年 11 月 12 日

保護者の皆様

豊能町立東能勢小学校
校長 松山 隆彦

令和 3（2021）年度全国学力・学習状況調査の結果について

深秋の候、保護者の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育活動推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、5月27日に行われました令和3年度全国学力・学習状況調査の結果が8月に文部科学省より公表されました。該当学年の6年生児童には個人結果を返却しましたが、本校全体の結果につきまして概況を報告いたします。

調査内容は、国語・算数と児童質問紙（生活習慣や学習に対する意識等の調査）です。

今回の調査の問題や質問紙の内容は、国立教育政策研究所のホームページ（www.nier.go.jp）で公表されています。また、豊能町の結果概要と分析、今後の取り組み等は、町ホームページ（www.town.toyono.osaka.jp）に公開されていますのでご覧ください。なお、この調査における結果は、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることにご留意ください。

1. 学力調査の結果

(1)国語

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。

正答率が比較的高く・国との差が比較的小さい問題

- 1二 資料を用いた目的を理解する
- 3一 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

無答率が高く・国との差が大きい問題

- 3三（1）ア ウ エ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

正答率が低く・国との差が大きい問題

- 1一 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの内容を考える
- 3三（2）イ 文の中における主語と述語との関係を捉える

【課題】

- ・漢字の書きに大きな課題がある。
- ・文や文章を構造的にとらえ、効果的に話したり書いたりすることに課題がある。

【指導改善に向けて】

○漢字の学習方法の見直し

知識・技能を習得するため、理解の深まりや学習効果を考え、「日常文の中で適切に使う」「経験と結びつけながら語彙を増やす」「同音異義語」「漢字の読み・書き・意味理解を段階的に進める」など漢字学習方法の見直しを行う。

○文を構造的に読む授業

目的を意識し、文章を読むことができるよう、根拠のある文章や、要点が絞られた文章、豊かな表現が用いられている、お手本となる文章を視写し、自分の文章と比較できるような、「書く時間」を授業の中で積み重ねる。また、学年の発達段階・系統性を大切にし学力が積みあがる授業を行う。

○読書指導の工夫

低学年から読書指導を大事にし、読み浸る時間を持つ。対話的・主体的な学びにつながる調べ学習や読書活動を行う。

国語 1 調べたことについて、資料を使ってスピーチをする（津田梅子の紹介）

1 上野さんの学級では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合うことになりました。上野さんは、津田梅子について調べ、メモをもとに資料を画面に映しながらスピーチの練習をしています。次は、上野さんの「スピーチメモ」、「スピーチ」、「資料①」から「資料④」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「スピーチメモ」

「はじめ」

○話題の提示 (資料①)
・新五千円札の「顔」
・津田さんの説明

「中」

○津田さんの業績
・業績1 (資料②)
・女子英学塾を設立
・業績2 (資料③) ④
・女性の英語教師を育成

「終わり」

○自分の感想

「スピーチ」

（資料①）を示すみなさん、これを見てください。今度新しい五千円札の「顔」となるのは、津田梅子さんです。私は、どのような業績を残した人なのかを調べてみました。

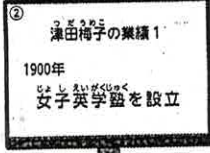
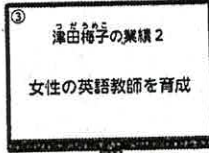
津田さんは、今から約百年前の教育者で、女子教育の発展に力をつくした人です。日本初の女子留学生として六歳から十一年間、アメリカで教育を受けた津田さんは、女性のための新しい学校を日本につくりたいという夢をもつようになり、津田さんは、社会に出て活躍する女性を育てる教育の実現を目指したのです。そんな津田さんの業績の中から、二つのことを紹介します。

（資料②）を示す一つは、「女子英学塾」を設立したこと。津田さんは、二十四歳で再びアメリカに渡り、大学で学びます。そして一九〇〇年、三十五歳のときに、日本で学校を設立するという長年の夢を実現しました。これが女子英学塾で、今の大学と同じような勉強をする学校です。当時の日本には、女性の通えるこのような学校がほとんどありませんでした。

ありませんでした。

（資料③）を示すもう一つの業績は、この学校で女性の英語教師を育成したこと。女子英学塾では、学生が英語教師の資格をとることを目標にかかげていました。津田さんは、授業の中で、よく学生たちと英語で議論を交わしました。学生がどんな意見を言っても批判することはありませんでしたが、はっきりと自分の意見を言わないときは厳しく指導をしました。そして開校から三年後、第一回卒業生の半数以上が、女性で初めての英語教師の資格試験の合格者となりました。（資料④）を示すこの地図を見てください。このように、津田さんは、社会に出て活躍する女性を世の中に送り出したのです。

津田さんは、信念をもって夢を成し遂げ、新たな道を切り開いた人だと思えます。津田さんの、だれもが社会で活躍する可能性を広げた業績は、素晴らしいと思います。私は、津田さんのこの業績が、新しいお札の「顔」となることにつながったのだと思います。



一 上野さんは、「スピーチメモ」を作り、「スピーチ」の練習をしています。業績を明確に伝えるために、上野さんはどのような構成で話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 事実と感想とを区別できるように、「中」で業績、「終わり」で自分の感想を話している。
- 2 感想を印象づけられるように、「はじめ」と「終わり」で自分の感想を話している。
- 3 二つの事実を区別できるように、「はじめ」で一つの業績、「中」でもう一つの業績を話している。
- 4 事実と感想とを関連づけられるように、「中」で二つの業績と自分の感想の両方を話している。

二 上野さんが、「スピーチ」の練習で、「資料②」と「資料③」を使った理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 難しい言葉の意味を示すことで、聞き手に正確に理解してもらったため。
- 2 自分の疑問点を示すことで、聞き手にもいっしょに考えてもらったため。
- 3 スピーチでは話さない情報を示すことで、聞き手に新たな興味をもってもらうため。
- 4 特に伝えたいことの要点をまとめて示すことで、聞き手の理解を助けるため。

国語 3 自分の考えを主張する文章を書く

三 丸山さんは、「文章の下書き」を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

- (1) 丸山さんは、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、ウ、エを漢字に書き直すことにしました。

次の——部アを漢字でていねいに書きましょう。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。

次の——部ウを漢字でていねいに書きましょう。

また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にウ積み重ねられています。

次の——部エを漢字でていねいに書きましょう。

かたづけられたり時間がなくなてかたづけられなかったりすることが、エげんいんなのだと思います。

- (2) 丸山さんは、——部イとオの文について、言葉の使い方を確認しています。

次のイの文について、——部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

イ 時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。

- 1 みんなが
- 2 使っていた
- 3 一輪車が
- 4 かたづけられずに

(2)算数

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の全ての領域において、大阪府・全国平均を大きく下回った。

正答率が比較的高く・国との差が比較的小さい問題

- 1 (2) 速さが一定であること基に、道のりと時間の関係について考察する
- 1 (3) 速さを求める除法の式と商の意味を理解している
- 1 (4) 条件に合う時刻を求める

正答率が低く・国との差が大きい問題

- 2 (1) 三角形の面積の求め方について理解している
- 2 (3) 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する

正答率が低く・無答率が高い問題

- 3 (4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する
- 4 (3) 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適応して基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述する

【課題】

- ・図形の構成要素に着目しながら、求積と公式を関連付ける所に課題がある。
- ・問われている内容を理解し、理由を言葉や式を用いて記述することが難しい。
- ・無回答が多く、新しい問題に挑戦しようという気持ちになれずあきらめてしまう。

【指導改善に向けて】

○具体物や体験を生かした授業

低学年での具体物や体験を通した活動を大切に、高学年での抽象的思考につなげる。

○問題解決に向かう意欲・思考力を育む取り組み

問われている内容を理解し、「絵にかいて考えることを楽しむ『どんぐり問題』」に全校で取り組む。

一人ひとりの学習状況を的確に把握し、全校で学力を保証する取り組みを進める。

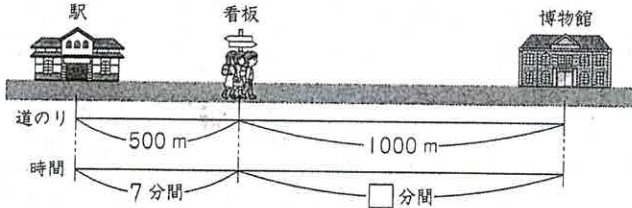
○自ら学び、次につなげる学習

自分の学習をふりかえり間違った問題をつづる「お宝帳」や、自分から能動的に学ぶ「自主学習」「けてぶれ学習」などに取り組む。

算数1 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること (地域めぐり)

たけるさんたちは、地域の昔の^{ちいさ}ことについて調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

(2) たけるさんたちは、駅から7分間歩いたところで、「博物館まで1000 m」や「駅まで500 m」と書いてある^{おんぼん}看板を見つけました。

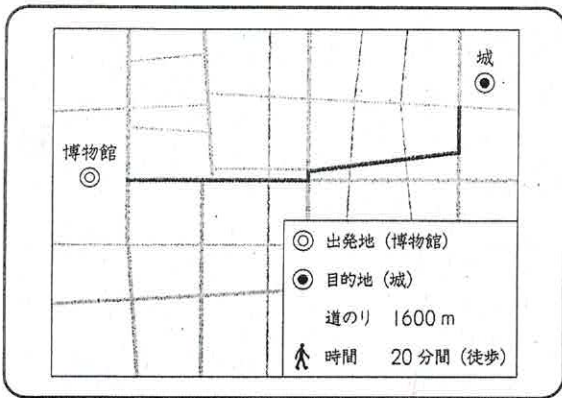


500 mを7分間で歩く速さで歩き続けると、1000 mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。

城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで調べました。



たける: 博物館から城までは1600 mで、20分間かかるようです。

ほのか: 私たちが歩く速さと同じくらいの速さなのでしょうか。

しおり: 私たちは、500 mを歩くのに7分間かかりましたよ。

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

道のりと時間		
	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$

㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 | 1分間あたりに進む道のりは80 mと約71 mなので、㊦のほうが速い。
- 2 | 1分間あたりに進む道のりは80 mと約71 mなので、㊧のほうが速い。
- 3 | 1 mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
- 4 | 1 mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。

(4) たけるさんたちは、城に着きました。

午後1時35分から見学を始めて、50分後に出発することにしました。

出発する時刻は午後何時何分ですか。その時刻を書きましょう。



見学を始める時刻



出発する時刻

算数 2 図形の構成の仕方に着目した図形の計量についての考察 (三角形や四角形の面積)

図1のような直角三角形があります。

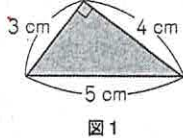
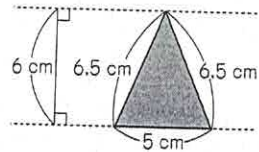


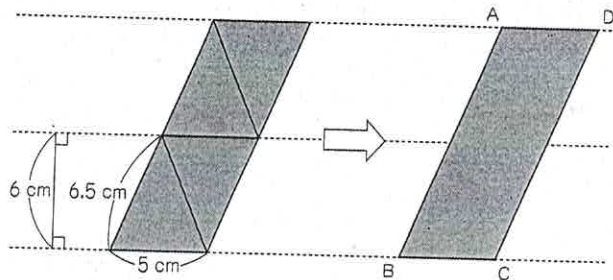
図1

- (1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。
求める式と答えを書きましょう。

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形 ABCD をつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形 ABCD の面積を求めます。

辺 BC を底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形 ABCD の高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形 ABCD の面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。

算数 4 計算結果について数量の関係に着目した考察 (除法と小数を用いた倍)

(3) 14 m のテープと 20 m のテープがあります。

こはるさんたちは、14 m は 20 m の何倍かについて考えています。



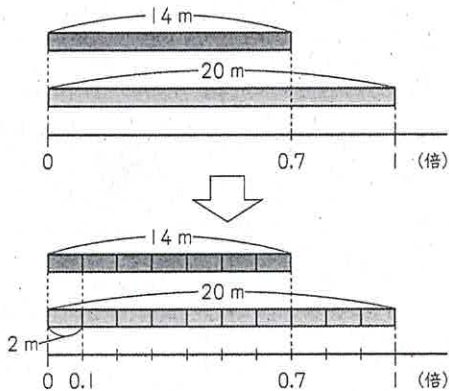
14 \div 20 = 0.7 で、0.7 倍です。0.7 倍というのは、20 m を 1 としたとき、14 m が 0.7 にあたることを表していましたね。



20 m を 1 としたとき、14 m が本当に 0.7 にあたるのかな。

れんと

れんとさんの話を聞いて、ゆうまさんは、20 m を 1 としたときに 14 m が 0.7 にあたるわけについて、20 m を 10 等分した 1 つ分の長さが 0.1 m にあたることをもとにして考え、下のように図をかいて説明しました。



【ゆうまさんの説明】



20 m を 1 としたとき、0.1 にあたる長さは 2 m です。
14 m は、2 m の 7 つ分になるので、20 m を 1 としたときの 0.7 にあたります。

12 m のテープと 30 m のテープもあります。

たくみさんたちは、12 m は 30 m の何倍かについて考えています。



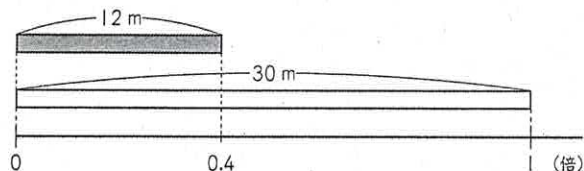
12 \div 30 = 0.4 で、0.4 倍です。



30 m を 1 としたとき、12 m が本当に 0.4 にあたるのかな。

30 m を 1 としたときに 12 m が 0.4 にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1 にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



2. 学習状況調査の結果

※特に国との差が大きかったもの・学校教育目標に関連のあるものについて記載

- ※ 肯定的回答が国と比べて高かった項目
 肯定的回答が国と比べて低かった項目

【基本的生活習慣、学習習慣・学習環境等】

朝食を毎日食べていますか。
毎日同じ時刻におきていますか。
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）30分以上
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。【2時間以上】
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上】

【挑戦心・達成感、規範意識、自己有用感】

将来の夢や目標を持っていますか。
自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか。
自分には、よいところがあると思いますか。
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
学校に行くのは楽しいと思いますか。

【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
今住んでいる地域の行事に参加していますか。

【学習に対する興味・関心や授業の理解度】

国語	国語の勉強は好きですか。
	国語の勉強は大切だと思いますか。
	国語の勉強の内容はよく分かりますか。
算数	算数の勉強は好きですか。
	算数の勉強は大切だと思いますか。
	算数の勉強の内容はよく分かりますか。
英語	英語の勉強は好きですか。

【授業改善に関する取り組み状況】

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【いじめについて】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という項目については、95.2%の児童が肯定的な回答をしている。「あてはまる」と答えた児童は85.7%と国より高いが、100%の回答にはならなかった。

【課題改善に向けた取り組み】

- ①人権総合学習・学級活動・縦割り活動等自己肯定感・自己有用感を高めるような取り組みを推進していく。
- ②引き続き地域の方と交流したり、外部に出かけたりする機会を多く持ち、社会との関わりから学ぶ。
- ③教員一人ひとりの授業改善を行い、学習の系統性や学力の積み上げを意識し、一人ひとりにあったやる気・達成感のある授業づくりを行う。
- ④「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践する。
- ⑤学校全体での学力保障の取り組みを進める。
- ⑥家庭学習において、宿題以外の学習方法を習得できるような課題の出し方を探る。
- ⑦家庭での過ごし方について家庭学習のあり方やSNSの使い方など家庭との連携を行う。

3. おわりに

今回の調査の結果を大変重く受け止め、学力は、積み上げられていくものであり、6年生の課題は、1年生から5年生までの課題として捉え、学校全体で課題の克服に向けて取り組んでいきます。

学校では、児童の「確かな学力」を育むために、日々の授業を重視し、継続して「とよの授業スタンダード」に則った授業をすすめていきます。また、毎日行われる授業の中では、児童同士が学び合い、つながる場面の設定を大切にしていきたいと考えます。それは、学び合いによってわかったり、できるようになったりすることが、児童の学力を向上させるだけでなく、学習意欲や自己肯定感をも高め、児童と児童の豊かな人間関係も育むことができると考えるからです。そのためには、教員の授業力の向上が欠かせません。児童が前向きに学習に取り組むことができるよう、児童の実態を十分把握し、一人ひとりに合った指導方法や指導体制の工夫改善を図り、日常の学習指導を充実させていきたいと考えます。

いじめについては、基本的人権を著しく侵害し、児童の心身の健全な成長を阻害し、人格の形成等にも甚大かつ重大な危険を生じさせるものです。一方で、どの児童も被害者と加害者の両方になりえるという危険性をもはらんでいるという状況を踏まえ、「いじめをしない・許さない」教育をめざし、今後も「未然防止」「早期発見」に向けた取り組みを進めていきます。

また、今回の調査において、家庭学習・家での時間の使い方・スマホ等SNSの使い方についての課題も出てきました。今後とも、ご家庭や地域の皆様と連携しながら取り組みを進めてまいりたいと思っておりますので、学校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。